

事業所の概要表

(令和 7年 2月 17日現在)

事業所名	グループホーム松風園					
法人名	医療法人松風会近松内科					
所在地	愛媛県今治市上徳乙284番地1					
電話番号	0898-35-5127					
FAX番号	0898-35-5128					
HPアドレス	https://www.facebook.com/profile.php?id=100064771033313					
開設年月日	平成 27 年 3 月 23 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input checked="" type="checkbox"/> 平屋 (1) 階建て (1) 階部分					
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人			
利用者人数	17 名 (男性 1 人 女性 16 人)					
要介護度	要支援2	1 名	要介護1	2 名	要介護2	4 名
	要介護3	3 名	要介護4	3 名	要介護5	2 名
職員の勤続年数	1年未満	7 人	1~3年未満	5 人	3~5年未満	4 人
	5~10年未満	2 人	10年以上	0 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 9 人			
	その他 (ヘルパー2級/初任者研修 7人 看護師 2人)					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	近松内科					
看取りの体制 (開設時から)	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 13 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	45,000 円	
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円	
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	
食材料費	1日当たり	1,350 円 (朝食: 250 円 昼食: 550 円)
	おやつ:	0 円 (夕食: 550 円)
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()	
その他の費用	水道光熱費	10,000 円
	共益費	3,000 円
	理美容代	1500~2000 円
	寝具リース料	102 円

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (発行回数: 回) ※過去1年間	
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員 <input type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input type="checkbox"/> 近隣の住民
<input type="checkbox"/> 利用者 <input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input type="checkbox"/> 家族等		
	<input type="checkbox"/> その他 ()	

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和7年2月26日 水曜日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	11	(依頼数)	16
地域アンケート	(回答数)	2		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3890200425
事業所名	グループホーム松風園
(ユニット名)	ユニット 1
記入者(管理者)	
氏名	近松聡行
自己評価作成日	令和7年 2月 18日

<p>【事業所理念】※事業所記入 グループホーム松風園は認知症高齢者の「ご自宅」であり、生活の場です。私たちは入居者の「ご自宅」での日常生活の維持と、生活の質の向上のために業務を行います。グループホーム松風園は、ご家族、近隣の方々、職員を含め松風園に関わりを持たれる全ての方の生活の質の向上を意図して運営します。入居者の方の生活は松風園の中だけでは完結いたしません。ご家族、他の事業所の方々、近隣の方々の生活の場としての役割を果たすことができると考えます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 課題 食事を楽しむことのできる支援 目標 利用者が食事作りの一連に関わる機会を作る。まずは月に一回でも 取組 まず一度食事作りに関わっていただく機会を作り、月一回の実施を目指す 結果 期間内未達成 課題 本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援 目標 以前の家族会と同様の行事を行うことが目標である 取組 気候の良い秋に屋外での家族参加の行事を行なう 結果 期間内未達成 課題 本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援 目標 運営推進会議を家族にとって参加することに魅力がある内容にする 取組 運営推進会議の議事録を家族に配布し、運営推進会議の存在を知っていただく 結果 期間内未達成 課題 災害への備え 目標 大がかりな避難訓練だけではなく、多様な実施可能な方法を考える 取組 月一回、全員の避難訓練ではなく、防災に関わる行事を行う 結果 期間内未達成 課題 地域のケア拠点としての機能 目標 散歩などでずれ違う地域の人に挨拶をし、話ができる雰囲気を作るところから始める 取組 まず挨拶などで、地域の人に対して顔の見える交流を行う 結果 地道に挨拶をしています</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 調査訪問日には、廊下で歩行練習をする利用者が複数いた。職員は、応援したり、ハイタッチしたりして利用者が意欲的に行えるようサポートしていた。 買い物客の少ない時間帯を選んで、スーパー等に利用者の日用品等の買い物に付き添っている。外出に良い季節には、葉の花や桜を壁に掛けたり、野間馬ハイランドや桜井海岸に出かけたりして気分転換を図っている。日々の中では、天気や気温をみながら、玄関前のスペースでひなたぼっこをしたり、周辺の散歩を支援している。外に出ることを徳助が人には、「車いすで出てみる？」など本人にとって不安な点をカバーして話し、外で過ごす機会をつくっている。 ベッドの枕元にラジオを置いて、自宅でのように、起床時等にFM放送を聞けるよう職員がサポートをしている。自宅で食後のコーヒーを楽しんでいた利用者には、居室にコーヒーストを用意し、職員がお湯を注ぐなど、サポートして楽しみを壊られるよう支援している。</p>
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	その方の気持ちが楽になり笑顔が出るように把握に努めている	◎		○	入居時には、利用者や家族から暮らしの意向を聞き取り、基本情報シートに記入している。日々の会話の中で利用者から聞いた希望や意向は、「タブレット端末の「施設経過」」に利用者の言葉をそのまま記録している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	意思表示が不確かでも本人の不満が減り、納得されるよう気を付けている				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	機会を捉え、ご家族に意見を聞いている				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人の思いを表す発言、行動は記録して共有化しようとしています。印象に残る事柄はユニット会で報告します。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の意見を聞くよう、できれば本人自身が思いにそった行動ができるよう援助している				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時の聞き取りのほかに、ご家族から手がかりとなる話を聞くようにしている	◎			入居相談の折に、聞いた生活歴等の情報を入居相談シートに記録している。家族には、入居時に利用者本人についての情報を、事業所独自の「暮らしの情報シート」(毎日の習慣、食事の好み、トイレの習慣、好きなテレビ番組、趣味、仕事、性格・特徴、近所づきあい等の項目)を記入してもらっている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	必要なことなので把握に努めている				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	本人が迷いなく落ち着かれるよう適した生活のリズム等、把握に努めている				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ケアプラン作成時に検討している			○	サービス担当者会議やケアカンファレンス(ユニット会時に行う)時には、「暮らしの情報シート」の情報を利用者の言葉等の情報を踏まえて話し合っている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	ケアプラン作成に利用している				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人が落ち着いて暮らせるよう内容を検討している				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	色々な立場の人の意見を聞いている	○		○	利用者の身体状態によって、主治医の助言や訪問看護士、また、訪問リハビリの理学療法士の意見等を介護計画に採り入れている。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	他者、ご家族との交流を通して一日一回でも笑顔が見られるよう対応に気を付けている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族との関りは計画の重要な部分であり、欠かすことはできない				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアチェックリストで再確認している			○	新たに介護計画を作成した際には、ユニット会時に周知している。ケアチェック表に、長期・短期目標と支援内容を記入しており、職員は毎日チェックすることで把握・共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアチェックリストでチェックしている			○	ケアチェック表に毎日記号(○・×)を付けてケアが実践できたかを記入している。必要に応じて具体的な内容を紙内にメモしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	行っている			○	ケアマネジャーが責任を持って期間を管理しており、1年ごとに見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	行っている			○	ケアチェック表をもとにして、ケアマネジャーが毎月モニタリングを行っている。 毎月のユニット会時に、ケアカンファレンスを行い利用者の現状について話し合っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	作成している			○	この一年間では、骨折や病状悪化等に併い身体状態に変化があった利用者について介護計画を見直した事例がある。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ユニット会で間に合う時は、月一回のユニット会で議題にしている			◎	毎月、ユニット会を行い議事録を作成している。ユニット会時には、ケアカンファレンス、研修もやっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	それぞれが気が付いたことを自由に言えるよう気を付けている				ユニット会は、第3火曜日に行っている。ユニット1は、13時から、正職員を中心に行っている。パート職員等には、意見を出すことを控える人もいるよう、管理者が事前に聞いておくようしている。
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	内容が分かるよう議事録を作成している			◎	ユニット2は、18時から行っており、活発な意見交換を行っている。全職員が議事録を確認して捺印するしくみをつくっている。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	重要なことは介護日誌で申し送りしている、レポートを介護日誌に挟んでいる	◎		○	業務日誌や職員グループのSNSで、情報伝達をしている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	努力はしているが、毎日は叶えられない				入浴後に着替える服を一緒に選べるよう支援している
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる。選ぶのを待っている等)	○	自己決定、自力でできるよう気を付けている			○	おやつを数種類用意して個々に選んでもらうようなことがある。 ユニット2では、レクリエーションの道具を職員が手づくりしており、居間の棚に見えるように収納して、利用者が、いつでも手に取れるようにしている。
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	ひとりひとりのペースよりは、全体のペースで動いている				
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	そのようなことが無い生活は継続できないので、ここで暮らしていただけるよう努力している ただ思いを満たせないこともある			○	利用者がテーブル席で手付かず無沙汰そうな時には、歌謡曲を流して音楽を楽しむ時間をつくっている。利用者同士と一緒に歌ったり、その時代の思い出話をしたりするような様子がみられるようだ。 利用者の誕生日には、当人にバースデーたすきを掛けて、皆がお祝いの言葉をかけられるようになっている。 職員がケーキを手づくりして祝っている。
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	お話が難しい場合は、表情や身体動きに安らぎ、気持ちよさがみられるよう気を付けている				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であらかじめ丁寧な言葉かけや対応等)	△	利用者様が、少なくともここでみじめな生活を送られないよう望んでいるが、配慮が足りない時もある。職員を増やし、余裕をもって対応できる就業環境を作りたい	◎	◎	○	職場内研修(虐待防止、身体拘束廃止、認知症ケア、プライバシー保護等)の年間計画を立てており、ユニット会時に研修を行い、学びを深めている。 管理者(施設長)は、ユニット会時を捉えて、「利用者」に安心感を感じてもらえるような職員になることの大切さを繰り返し語っている。ユニットによっては、職員の態度について利用者が注意してくれるような場面があるようだ。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	配慮しているが、不十分な時もある				
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	配慮している			○	ユニット2の居室は居間に面しており、入り口戸の内側にカーテンを付け、戸を開けておく時には、カーテンを引いている。 ユニット1は、必要な人の入り口にカフェカーテンを付けていた。 管理者は、利用者に許可を得てから入室していた。
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	している				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	職員(管理者)と一緒に食事をし、いただきます、ご馳走様でしたを全員に言うようにしている				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	職員もお相手をするが、同じ年代の方同士がお互いを認め合うことが大切と理解しています。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)	○	話題の誘導など支援に努めている			○	新しい利用者は、世話上手な利用者の隣に、座席を設けるようにしている。 「はつきりものをいう」利用者同士のトラブルが多々あるようだが、職員が間に入って気を遣わせたり、場所を移動したりして対応している。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	相性の悪い方は距離をとるようにし、接近される場合は気を付けている				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人にとって重要な人、大切な場所は意識し、お話をするようにしている				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	面会は玄関のみ可能ですが、外出外泊に制限はないので、ご家族友人にお伝えしている				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	気候の良い季節は近所への散歩が日課になっています。玄関の外での外気浴、日光浴は気軽にしています。敷地内の舗装の上は靴を履き替える面倒が無いよう、上履きのまま出たがたいです。		○	○	買い物客の少ない時間帯を選んで、スーパー等に利用者の日用品等の買い物に付き添っている。 外出に良い季節には、菜の花や桜を見に出かけたり、野間馬ハイランドや桜井海岸に出かけたりして気分転換を図っている。 日々の中では、天気や気温をみながら、玄関前のスペースでひなたぼっこをしたり、周辺の散歩を支援している。外に出ることを億劫がる人には、「車いすで出してみる？」など本人にとって不安な点をカバーして誘い、外で過ごす機会をつくっている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	外出は自由ですが、ボランティア等の支援は受けたことが無い				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	木をp着けているが、トイレ声掛け、誘導などで気分を書される時もある				午後のおやつ時間に合わせて、ラジオ体操等を行うことを支援している。 調査訪問日には、廊下で歩行練習をする利用者が複数いた。職員は、応援したり、ハイタッチしたりして利用者が意欲的に入るようサポートしていた。 シーツ交換の折には、利用者と一緒にしようなケースがある。干し柿をつくった際には、利用者は包丁で手際よく柿を剥き作業をしたようだ。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	自分の事は、自分の満足するやり方で、できるだけ自力でしていただくよう気を付けています。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒にしようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	自分の事は、自分の満足するやり方で、できるだけ自力でしていただくよう気を付けています。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	その方が集中される作業(お盆拭きなど)をお願いするようにしている				職員が自宅から花を摘んで持ってきてくれることがあり、利用者に活けてもらい居間や玄関に飾っている。男性利用者には、エアコンのフィルター掃除を一緒にしてもらう等、出番をつくっている。さらに、利用者の持っている力を活かして、個々に役割や出番のある暮らしを支援して欲しい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	そのように努力しています。	◎	○	○	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人の気持ちに合う身なりを自分で選んでいただけるよう気を付けている				利用者には季節に合った清潔で似合う洋服を着て過ごしていた。 2~3か月ごとに訪問美容師が来ており、利用者に希望を聞きながら、本人が納得いくようにカットをしている。化粧をする習慣のある利用者には、自室の洗面台にいつもと同じようにセットしておき、自分で化粧ができるよう支援している。 事業所内で盆踊りの行事を行った際には、利用者には化粧をするか聞いて支援した。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	服装を自分で選んで、鏡を見ながら自分でヘアブラシを使うように気を付けている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	その人のイメージに合った、その人に似あうと思われる洋服などをアドバイスしている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を装飾するよう支援している。	○	季節に合った選択肢を用意するようにしている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	何も言わずにカバーするように気を付けている	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	なじみの店がある場合にはご家族にお願いすることもある。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	元気な時に着ておられた上着、セーターなどを羽織ったり、布団の上にかける等することがある			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は皆さん待っている一日の行事ですが、一緒に食べる職員がいただきます、ご馳走様でしたを一人一人丁寧に伝え、感謝の雰囲気がかかるようにしている				調理専門の職員が、献立づくりや買い物、食材選び、調理等を行っている。 利用者には、お盆拭きやテーブル拭きを任せられているが、食事つくり一連にかかわるような機会はほほない。 今治の郷土料理のいぎす豆腐を献立に採り入れている。正月の餅は、おふくにして雑煮にした。さらに、自己評価から両方のユニットで食事に対する意見がうかがえる。「食事を楽しむ支援」という点から、利用者の好みやリクエスト、味付け、形態や食感など十分に反映できるよう取り組みを工夫してほしい。 入居時に持ち込んだ個人用の食器等を使用している。食器に名前シールを貼っていた。 職員は、利用者の食事介助したり、台所で片付けたりして、後で休憩時間として、別室で持参した弁当を食べる。職員は、食べ終わった利用者のお膳から順に下げている。 管理者のみ、利用者と同じものを一緒に食べている。 居間にいると、台所の様子がよく見えて、料理ができるにおいがする。さらに、今後も、利用者がおいしい食事を楽しみにしたり、楽しんでいただけるような支援に工夫を重ねてほしい。 職員で話し合うような機会は持っていない。調理専門の職員は、柔らかく、食べやすいような食事をつくるようにしている。 職員は、食事に関する意見(量が少ない・肉や魚が少ない等)や利用者からの希望(牛肉が食べたい・バナナやみかんが食べたい等)を調理専門の職員に伝えている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	お盆拭きを手伝って下さる。			×	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	お盆拭きはしていただくが、調理、盛り付けなどそれ以上の事はしていただいていない。敷地に生えるつくしのハカマ取りをしていただく事はある。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	種類が嫌いな人がいます。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	△	気を付けているが、柔らかさ食べやすさが優先になっている			△	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	職員の感覚で配慮している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	使用している			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	職員(管理者)と一緒に食事をして、いただきます、ご馳走様でしたを一人一人に伝えるようにしている			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	職員としては、気分良く食べていただけるよう配慮している		◎	△	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量、水分量は記録して気を付けている				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	取り組んでいる				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	調理担当者が決めています。他の職員の意見を聞くときはある。			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理用具や食器はハイターやミルトンなどを使い消毒しています。食器乾燥機を使い熱で乾かしている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	食事の前に口腔体操をしている				職員が口腔ケアを行う際に目視している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	把握している。状況によって家族に相談し歯科受診している			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	歯科受診の際指導を受けることはあるが、口腔ケアの研修の機会は設けていない				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	ポリドントなどを使うよう支援している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	食後の口腔ケアをしていただき、気を付けている。自分で磨くかたは任せている場合がある			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の利用者が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	それが恥ずかしい事と言う認識がなければ、特別抵抗を感じられない場合もある。トイレはプライバシー、「恥ずかしい」場所なので、笑いや物に感じられないよう注意が必要と理解しています。				毎月のユニット会時に、夜間の様子なども情報交換しながら支援について検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘は生活を不快にし、不機嫌、不穏の原因になると理解しています。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	それぞれ把握しています				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	できるだけ本人の意にかなうように支援している	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	できる限りトイレで排泄できるよう、介助している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	断られた場合は無理をしないようにしている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	初めてパッドを使用される場合は気を付けている				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	オムツと紙パンツは使い分けているが、一度紙パンツにすると布パンツは使わない。布パンツにナプキンを使う場合はあった				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	朝の牛乳を勧めている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	体調を見ながら入浴お湯につかる時間を少し長めにしている。本人に聞いている(最初に)温度。	◎		○	週2回、午前中の中入浴を支援している。入浴の誘いを断る利用者には、午後からも誘ってみようとしている。利用者ごとに湯を入れ替え、入浴剤を入れ、湯温は希望に沿っている。浴槽で温まってから体を洗う習慣の人に依っている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	1人ずつお湯を替えて入浴介助している				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗えるところは自分で洗ってもらっている				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	入浴の手順が分からないことが拒否の原因であることがあるので、その場合はやさしい自然な声掛けで誘導している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	朝の体温、血圧等で判断している				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	できる限り把握して夜のトイレ声掛けなどを行っている				主治医に利用者の状況を報告して相談しながら支援しており、現在、約半数の利用者が睡眠導入剤を使用している。就寝前にホットカルピスを用意して安眠につなげるようなケースがある。夜間起きてくるような人には、温かいお茶を用意して話しを聞き、タイミングをみて居室に誘うようなケースがある。「眠れていなかった」という申し送りがあれば、日中散歩に誘うようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	ただもう寝る時間ですよと声掛けするだけではなく、身体が夜を感じられるよう夕焼け、日暮れの明るさを見てもらうこともある				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	気を付けてはいるが、きめ細かい支援とまでは言えない			△	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	昼食後は昼寝を勧めている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族の理解があり、本人が望むなら電話手紙のやり取りを支援している					
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀状の返信は来ていない					
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	支援している					
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた年賀状について家族に連絡したが返信が出来なかった					
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	面会をお願いすることはある、面会が出来ない場合希望があれば電話をしている					
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を持つと安心する方もいるが、ここではなくとも大丈夫と説明することもある					
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	歩ける方はスーパーに行くことがあるが、買い物先への働きかけはしていない					
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	お金を管理できる人は、頼まれた買い物の代金を本人に払ってもらっていた					
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に相談している					
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	お小遣いを預かった場合、お小遣い帳で管理している					
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに代われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	特に取り組んでいない。ニーズがあれば仕事として取り組む	◎		○	遠方の家族からの依頼で買い物の代行を行うようなケースがある。また、病院受診を支援している。	
(3) 生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	門は閉じており気軽に出入りはできない。コロナ以前はご家族が訪問に来られない日は無く、門も夜以外は開けたままでした。	◎	◎	○	駐車場からの入り口に付けている門扉は閉めているが、鍵はかけていない。 玄関のベンチの前に火鉢を置いており、炭を入れて暖をとれるようにしていた。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	開設当初は張り紙、掲示など一切なく、老人施設、介護施設という雰囲気を少し減らしたいと考えていたが、お若い時の色々な経験(財産)を思い出するための手がかりは必要と考えます。製材所にいた方には、大工さんから木材の切れ端をもってきて来たりなど、個別に対応するようにしています。	◎	◎	◎	居間の壁に、新たに掲示板を付け、季節の装飾や利用者の作品を飾っていた。 テレビの近くにソファを設置している。 居間にカメラを設置しているが、家族に暮らしの様子をみってもらうため設置したもののようだ。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除はしています。			◎	室内の戸は、大きいガラス戸が多く、見通しがよく明るい。天井が高く梁が見える。不快な音や臭いもなく、掃除が行き届き清潔感がある。 事業所の裏が小学校で昼休みの時間や運動会の時期には、子どもたちの声がよく聞こえてくる。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	生き物の身体に危険を感じさせない環境を工夫したいが十分ではない				○	屋食後、テレビの画面に自然の風景の映像を流していた。 廊下の突き当たりと、居間のテレビの上部に、文字盤がはっきり見える大きい時計をかけている。 本棚には、いろいろなジャンルの本を用意している。 テーブルの横にサイドテーブルを置き、雑誌等も置いていた。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	自室、食堂、玄関、玄関先など					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのおものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	工夫はしている	◎		○	ベッドの枕元にラジオを置いて、自宅でしていたように、起床時等にFM放送を聞けるよう職員がサポートをしている。 自宅で食後のコーヒーを楽しんでいた利用者には、居室にコーヒーセットを用意し、職員がお湯を注ぐなど、サポートして楽しさを届けられるよう支援している。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	迷われないように見守りしている			○	トイレの表示は、居間の方からも見えるように設置していた。 居室のベッドサイドにナースコールを付けている。照明のリモコンには、点滅ボタンに「つける」「けす」と操作ボタンのみ示し、他のボタンを押さないようにカバーを付けていた。	
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	本棚はあるが、生活用品は置いていない					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけることが出来ない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけるなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	居間玄関は施錠していない。閉じ込められることは生き物の身体に危険を感じさせ、生き物にとって有害である。門扉は閉めているが施錠はしていない			◎	○	職場内研修(虐待防止、身体拘束廃止、認知症ケア、プライバシー保護等)の年間計画を立てて、ユニット会時に研修を行い、学びを深めている。 門扉は閉めているが、鍵はかけていない。 玄関は日中は、鍵をかけていない。玄関にセンサーを付けている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族からそのような望みはない					
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	フェイスシートをいつでも見られるようにしている					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	記録をして、気になることは共有している					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	こまめに相談している					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	支援している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診については基本的には家族に動向をお願いしている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院治療が順調に進むよう協力している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院関係者に協力している				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	気づきを相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	協力医療機関の医師とは時間外でも連絡が取れる				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	健康管理には気を付けている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	情報提供している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬箱を工夫している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	体調の確認は行っている				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	ご家族と本人が悔いを残さないよう気を付けている				入居時、「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って説明を行っている。状態変化時には、主治医から家族に状況説明があり、話し合ってから方針を決定している。この一年間では、看取りを支援した事例はなかった。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	ご家族と本人が悔いを残さないよう気を付けている	○	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	ご家族と本人が悔いを残さないよう気を付けている				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入院などの判断材料を提供し決めていただいている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族との信頼関係を保つよう気を付けている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	私たちの仕事、敬意が信頼されるよう気を付けている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	施設内研修にて定期的に学んでいる				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	訓練はしていないが、過去にコロナ感染者が出た経験に学んでいる				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	情報に気を付けている				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	清潔に気を付けている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	家族は支援される一方の立場ではない。私たちの収入、生活は利用者、家族によってもたらされている				<p>特にには取り組んでいない。</p> <p>毎月、利用料金の請求書とともに、本人の写真を同封している。</p> <p>ユニット2は、ケアマネジャーが約半数の家族とSNSでつながっており、誕生会や行事などの写真をリアルタイムに送信している。また、面会時に報告を行っている。</p> <p>ユニット1は、電話で利用者の様子を伝えている。また、面会時に報告している。</p> <p>さらに、定期的な報告に工夫してはどうか。家族が知りたい本人の情報を発信するような取り組みを工夫してみてください。</p> <p>現在、家族に運営推進会議の案内はしていない。行事については、毎月、写真を送ったり、ケアマネジャーがSNSで写真を送信したりしているが、事業所の運営上の事柄や出来事について報告するような取り組みは行っていない。</p> <p>家族と話す折には、利用者の様子を報告してから要望等を聞くようにしている。</p>	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	コロナ以降家族との交流は積極的にしていない	△	×			
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	請求書と一緒に写真を送っている	◎		△		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	利用者の生活は、家族との生活の					
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営上の事柄については家族に報告していない	×		×		
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	心配なことは相談している					
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	玄関での面会に制限しているが、外出外泊は制限していない。			○		
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	丁寧に説明している					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	利用者本人の為と言う、家族と同じ立場で最善の提案をしている					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	内覧会で挨拶して以来説明していない			○	<p>散歩時には、地域の人とあいさつを交わっている。この一年間では、利用者と職員で保育園の運動会の応援に出かけたり、公民館の餅まきに参加したりした。今後さらに、地域行事への参加等をすすめ、地域の人との交流の機会を増やしてほしい。</p>	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	散歩で出会う近所のかたに挨拶をすることから始めている			△		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	挨拶する以上の交流はない					
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	以前は野菜をいただいたり、保育所の子供がスイカを持って来てくれたりしていたが、コロナ以降はない					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶する以上の交流はない					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	働きかけは行っていない					
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、目頃から理解を拓ける働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	住民センターの市の職員の人、消防署の人とは面識がある					
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	地域の人参加はあるが家族の参加はない	△		△	<p>地域の人(自治会、民生委員)や市の担当者等の参加を得て会議を行っている。</p> <p>利用者や家族は参加していない。</p>	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	運営推進会議で外部評価について報告している			△	<p>会議では、利用状況、利用者の状態、活動(写真入り)等の資料をつくって報告している。職員の手不足など事業所の課題についても詳しく説明を行っている。</p> <p>地域の人から、地域活動の報告や行事への案内がある。</p>	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマに合わせて参加メンバーは増やしていない	◎			<p>市の担当者からは、「ご家族等の参加を検討してください」と意見があった。</p> <p>昨年の外部評価実施後は、目標達成計画を添付して評価結果を報告した。</p>	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	グループホーム松風園は、ご家族、近隣の方々、職員を含め松風園に関わりを持たれる全ての方の生活の質の向上を意識して運営します(理念の一部)				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関に掲示しているが伝える機会は少ないです	○	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者、基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として抜くのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	人手不足の為研修を入れる余裕がありません				施設長である管理者は、聞き役となっており、職員は気軽に意見や要望を伝えに来ている。時には、職員にお菓子を差し入れて労っている。休憩時間を1時間確保している。法人代表者は、往診や運営推進会議の折に事業所に訪れて話を聞いている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	施設内研修で項目ごとに説明しています				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員の生活の質の向上のため、休みの確保、残業の削減、年収の向上に努めています。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	今治市グループホーム交流会は再開されておらず同業者との交流は行っていない				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員の生活の質の向上を心掛けている	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることのないよう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	虐待を含む仕事は、対価を受け取る仕事として成立しない事をユニット会で強調している				職場内研修(虐待防止、身体拘束廃止、認知症ケア、プライバシー保護等)の年間計画を立てて、ユニット会時に研修を行い、学びを深めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	管理者からの働きかけは不足している				
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の生活の質は仕事の質に直結していると考え注意を払っている				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修で取り上げている				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	研修で取り上げている				
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族からそのような要望はない				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	制度についての支援の実績はない				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	運営推進会議の時に地域包括支援センターの人に質問することはある				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルは作成、掲示している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	訓練は行っていない 看護師のするようにしている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手事前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットは共有している				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	その日の歩行状態などを見て転倒防止に気を付けている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情受付窓口は管理者となっている、入居時に市役所、国保連などの苦情相談窓口を紹介している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	要望はあったが苦情の受付はなかった				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	要望はあったが苦情の受付はなかった				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	挨拶し、話しやすい雰囲気を作るようにしている	◎		△	運営推進会議に利用者や家族は参加していない。利用者や家族に運営に関する意見や要望を聞くような機会は特にはつくっていない。家族から個別に、「職員の名前を覚えられないので、玄関に職員の紹介写真を掲示してほしい」と提案があったが反映には至っていない。 管理者やケアマネジャー、ユニットリーダーは、職員に声をかけるなどして話しやすい雰囲気に努めている。また、職員と一緒にケアに取り組みながら話を聞いている。管理者は、「自分が利用者だったらどうか」という視点で話をすすめられるよう努力をしている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約当初しか行っていない				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は往診で月に一度現場に足を運んでいる				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ユニット会の時気付きを聞くようにしている			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	代表者は今回の自己評価に参加していない				昨年の外部評価実施後の運営推進会議時に、目標達成計画を添付して評価結果を報告した。モニターをしてもらうような取り組みは行っていない。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	実現可能な目標を設定したつもりだったが実行が遅れている				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	目標達成計画は運営推進会議で説明している	△	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	前回の目標に対する成果はまだ報告していない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	対応マニュアルはあるが周知は不足、シンプルに直す必要がある				この一年間は、避難訓練は実施していない。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	まだしていない				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	どこにあるか見ておく				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署の防火設備検査の時相談したことがあった	△	○	×	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	共同訓練は行っていない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	情報発信、啓発活動は行っていない				特に取り組んでいない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	入居申し込みの方から相談を受けることはある		×	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	解放、活用していない 感染症の恐れがあるうちは難しい				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	人材育成に協力できていない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域活動はとくに行っていない			×	